

# 令和元年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

上島町教育委員会

## 1 取組の目的

- 1 児童生徒が災害について正しく理解し、学校・家庭・地域の防災活動において的確な安全確保行動をとるとともに自他の命を守るために主体的に行動できる能力を身に付ける。
- 2 災害時における学校の役割を理解し、児童生徒の命を守るための対策・対応ができるよう、教職員の資質を高める。
- 3 防災教育の取組を推進するため、拠点校に中核となる教員を位置付けるとともに、学校と地域との連携及び災害に対する専門家等からの指導・助言により、学校防災・地域防災の実践的な知識を習得する。
- 4 研究・検討を重ねることで、より効果的な防災教育の方法を構築し、その成果を町内の拠点校以外の学校に普及させる。

## 2 取組の内容

4月19日 予告あり避難訓練



岩城中学校において、地震を想定して予告ありの避難訓練を行った。年度始めの訓練であるため、新1年生にも分かるように避難経路の確認を確実に行った。訓練では、地震発生の放送で机の下に入り、その後一時避難場所である運動場へ、安全を確認した後、二次避難場所である高台に避難した。

5月8日 予告なし避難訓練（遠足）



岩城中学校において、学校外で地震が起こった場合を想定し、予告なしの避難訓練を実施した。班長を中心として、素早く身の安全を確保する行動をとった。遠足中に実施することで、より実践的な訓練ができた。

5月28日 予告あり避難訓練・AED講習会



岩城小学校において、予告ありの地震・津波対策の避難訓練を実施した。その後、上島町消防本部の方々を講師に招き、6年生と保護者を対象にAED講習会を開催した。心臓マッサージの方法やAEDの使用法について学習し、救命救急法に関する知識を身に付けた。

5月28日 上島町総合防災訓練



上島町全域で、一斉防災訓練を行い、岩城地区においても、児童生徒が地域の方々とともに訓練に参加した。発電機の使い方や毛布を使った搬送の仕方等、地域全体で取り組んだ。児童生徒は、地域の自主防災活動や組織を知る機会になっただけでなく、防災における地域貢献について考えを深めた。

6月26日 救急救命講習会



岩城中学校において、上島町消防本部の方々を招き、救急救命講習会を開催した。心臓マッサージの方法やAEDの使用法について学習し、参加した生徒には普通救命講習修了証が授与された。

8月22日 防災学習会（敬老会主催）



岩城地区敬老会の主催による防災学習会を開催した。地域のお年寄りだけでなく、小中学生や保育園児、保護者等、幅広い世代が集まり、心臓マッサージの仕方を学習したり、防災について学んだりして、危機管理意識を高めた。

8月24日 越智郡（上島町）PTA研究大会



上島町内の小中学校教職員、保護者が集まり防災教育の在り方について協議した。上島町危機管理室から、防災における町の取組について、岩城小・中学校PTAからは、防災教育の取組発表を行い、その後、各校に分かれて避難所運営ゲームを行い、各地区の避難所対策について考えを深めた。

8月26日～8月28日 防災教育先進校・被災地視察研修①



脇坂順三教頭（岩城小学校）、村上教美教頭（岩城中学校）、2名が被災地視察を行った。1日目には、仙台市の荒浜地区を中心に視察を行い、自然災害の脅威や復興に向けての被災地の前向きな取組について研修した。

## 8月26日～8月28日 防災教育先進校・被災地視察研修②



研修① 語り部ガイド  
「芳賀 長恒さん」による講話



南三陸町歌津中学校訪問



2日目は、南三陸町に移動し、町全体の視察、語り部ガイドさんによる講話、南三陸町立歌津中学校の防災教育先進校視察を行った。子どもたちが生き抜くための防災教育の推進、人間力の育成や地域力の向上に向けた取組を学び、その後、校内研修や実践委員会の報告に生かした。

## 9月6日 予告なし避難訓練



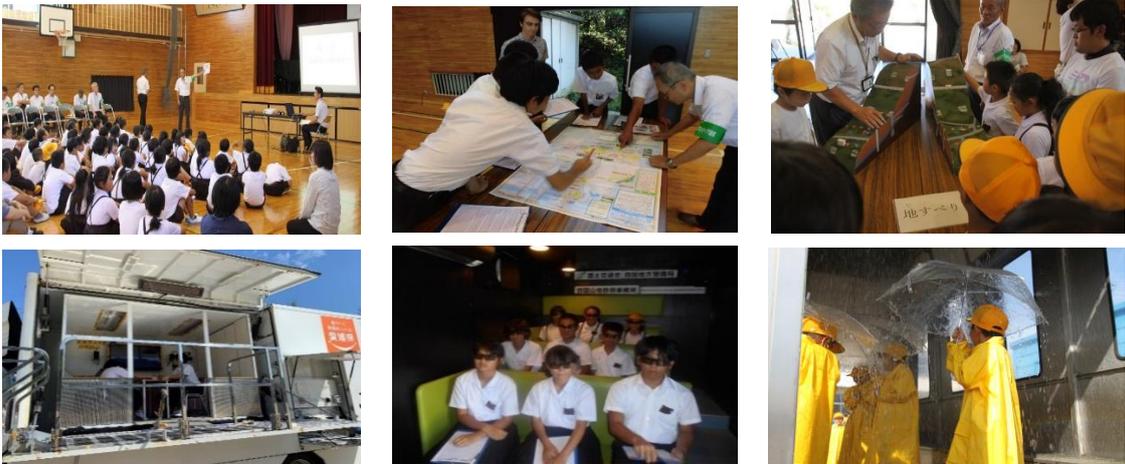
岩城小学校において、9月の防災週間に予告なしの避難訓練を行った。様々な場合を想定しながら、現実に即した実践的な避難訓練を継続していくことで、児童の安全意識・防災意識の向上に努めた。

## 9月13日 小中合同避難訓練



小中学校合同で避難訓練を行った。避難完了後は、地区別に避難の場所や避難の仕方について中学生が中心となって話し合った。また、訓練の振り返りを行うことで、避難に対する自分の課題を確認した。

## 9月25日 小中合同防災学習会



岩城小・中学校全児童生徒を対象に、愛媛県土木部及び上島町消防本部の協力を得て、小中合同防災学習会を開催した。防災に関する講話、防災マップを使って岩城地区の危険場所の確認、模型実験装置を用いた土砂災害の対応策等について学習した。また、起震車による地震体験や土石流3D体験シアターや降雨体験等を疑似体験する中で、災害の恐怖、早期避難の大切さを学んだ。

## 10月 防災マップの作成 (中学校)



岩城中学校1年生が中心となり、岩城地区のハザードマップを活用しながら、予想される災害、避難場所、避難経路を想定し、防災マップの作成の計画を立案した。その後、計画を基に地域の方々にも多数参加していただき、防災士の説明を聞きながら調査をした。その後、実地踏査で得られた①危険場所、②安全と思われる場所、③災害時に役立つもの、④避難所、を中心に防災マップとしてまとめた。

10月18日 木造住宅耐震化普及啓発出前授業



岩城小学校4・5・6年生を対象に、愛媛県建築住宅課の方々を招き、木造住宅耐震化普及啓発出前授業を行った。過去の地震例を基に、地震被害の様子を知るとともに、住宅を耐震化することの必要性を学んだ。

10月20日 中学校防災参観日・地域ふれあい学習会・講演会



岩城中学校において、防災参観日を実施した。各学年の授業では、災害時における家族との連絡の取り方や、避難所の運営の仕方、災害時における必要なスキル等を保護者と一緒になって取り組み、考えを深めた。後半は、教育委員会主催で近見中学校、越智敦子養護教諭を講師に招き、地域ふれあい学習会（防災教育講演会）を開催した。「被災地からのメッセージ」と題して、東日本大震災復旧で派遣された御自身の体験を基に、防災から人間の生き方について心に残るお言葉をいただいた。

11月19日 防災マップ説明会



岩城中学校1年生が、岩城小学校を訪問し、防災マップ説明会を行った。各地区に分かれ、防災マップを作成した中学生が防災マップを提示し、危険場所や避難場所等の説明を行った。中学生は、小学生に説明することでさらに、避難経路等の再確認をするとともに防災に関する意識を高めた。小学生は、具体的な場所等を知ることによって今後の避難についての見通しをもつことができた。

## 11月 防災カルテの作成



**災害・避難カード**



**わたしと家族の防災カルテ**

**わたしの情報**

氏名 \_\_\_\_\_

性別 \_\_\_\_\_ 血液型 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

留意事項  
(持病、飲んでいる薬など)

**家族の緊急連絡先**

氏名	続柄	連絡先 (住所・性別)

★ 電話がつかないときは、**117**(災害伝言ダイヤル) ※ 音声説明あり

↓ 自分自身の居場所や最寄り駅を伝える  
録音「1」

↓ 家族等の居場所や最寄り駅を知る  
再生「2」

連絡をとりたい人の電話番号入力(市外局番から)

**CHECK! 自分の避難場所を確認しよう!!**

地震・津波	台風	土砂災害(その他)

★ 学校へ行く途中、帰る途中で大きな地震があったら、わたしは \_\_\_\_\_ で、保護者を待ちます。

★ 家族に伝言を残す場合(家族と会えない場合)は、家の \_\_\_\_\_ に張り紙をして、上記の場所へ避難します。

★ 学校で大きな地震があったら、先生の指示に従って、保護者が \_\_\_\_\_ まで、迎えに来るのを待ちます。

岩城小・中学校全児童生徒は、防災カルテを作成した。防災マップを活用しながら、災害の種類に応じた避難場所、各自の避難方法や家族との連絡方法等の確認を行った。また、学校の登下校中に災害が起きた場合の待機場所や家族への伝言方法も明記した。

## 11月20日 小学校防災参観日・防災教育セミナー



岩城小学校では、防災参観日として、これまで防災について各教科等で学習してきたことを学習発表会として保護者や地域の方々に紹介した。「みんなで守ろう大切な命」をテーマに発表をする中で、自助・共助の大切さを理解していった。その後、南相馬市観光ボランティアの岩橋光善先生を講師に招き、「人と人がつなぐ支援」と題して上島町主催による防災教育セミナーを開催した。

## 12月25日 合同地区別避難訓練



岩城小・中学校全児童生徒が、2学期終業式後、防災マップ、防災カルテ等の作成の学びを生かしながら、合同地区別避難訓練を行った。訓練後、各地区の防災士から児童生徒に対して指導をいただいた。

### 3 学校防災教育実践モデル地域研究事業における実践委員会と成果発表会

#### 実践委員会構成員と実施日及び主な内容

## 実践委員会の設置

#### 【構成員】（20名）

- ①防災教育アドバイザー
- ②各小中学校教頭・学校安全担当
- ③岩城地区学校運営協議会会長
- ④越智郡PTA連合会会長
- ⑤スクールガードリーダー代表
- ⑥岩城小中校区自主防災組織会長
- ⑦伯方警察署岩城駐在所長
- ⑧上島町総務課危機管理室主事補
- ⑨上島町住民課主幹
- ⑩上島町消防本部総務予防課課長補佐  
事務局 上島町教育委員会（4名）



第1回(7月17日)	実践委員会	年間事業計画の検討
第2回(10月28日)	実践委員会	先進校視察の報告
第3回(12月6日)	実践委員会	上島町の防災について

#### 成果発表会

- ① 期 日 令和元年12月17日
- ② 会 場 岩城小学校
- ③ 研究主題 「生きる力」を育む防災教育（岩城小・中学校）
- ④ 授業公開 学級活動「災害から身を守ろう」6年生 渡部まりや教諭
- ⑤ 取組発表 岩城小学校の取組  
岩城中学校の取組
- ⑥ 研究協議
- ⑦ 指導助言 愛媛大学防災情報研究センター 二神 透 准教授



#### 4 取組の成果

- 災害についての授業を通して、適切な行動の基となる知識を育むことができた。
- 防災・減災について考える授業を実施したことで、自他の命を守るために主体的に行動しようとする意欲が高まった。
- 学習した知識と繰り返しの避難訓練により、思考力・判断力が身に付いた。
- 教職員も児童生徒も、実践力が身に付きつつあり、「自助」「共助」の意識が高まった。
- 授業や体験学習などへの保護者の参加により、保護者の防災への関心が高まった。また、地域の方々に教わったり、家族で話し合ったりする機会をもつことで、地域全体の安全に対する理解が深まった。
- 拠点校での充実した取組を実践委員会や成果発表会を通じて、モデル地域内の小中学校に伝達することができた。

#### 5 今後の課題

- 災害時における確かな思考力・判断力を身に付けるには、継続的・系統的指導が必要である。
- 情報を取捨選択し、自分の言葉で表現したり、判断したりする力を付けることが必要である。
- 安全学習を教育活動の様々な場面に位置付け、実践していかなければならない。
- 効果的な指導になるように、より系統だった年間計画に改善していく必要がある。また、災害が起きた時だけでなく、被災した後の行動にも目を向ける必要がある。
- 年齢や立場に応じて、共助ができるよう、実践力を身に付けていく必要がある。防災カルテを見ると、避難場所が本当にそれでいいのかと疑問に思えるものであったので、より安全に避難できるように、改良を重ねる必要がある。
- 防災教育は、地域・家庭・学校が一体となって取り組むことに意味があり効果がある。今後も協力しながら研究を深めていく。

#### 6 今後の具体的な取組

- 町危機管理室等、行政機関と連携し避難場所の再確認をする。
- 町内小学校児童・教職員全員分の非常持ち出し袋を配布する。
- 岩城地区以外の小中学校の防災カルテを作成する。
- 災害発生を想定して取るべき行動を計画するマイタイムラインの作成に向けて準備していく。